

第1回小規模企業振興検討小委員会 議事概要（主な意見）

日時：平成29年2月23日（木）14：00～

場所：県庁舎本館7階71会議室

【販路開拓・地域振興活動について】

- ・テレビや雑誌に取り上げられることも多いが、残念ながら売上げにはつながっていない。
- ・フェイスブックの研修にはいったことがあるが、まだ実際に活用はしていない。何がいちばんよい方法なのかまだ迷っている。
- ・1日だけのイベントは飽きられており、これからは地域の魅力の磨き上げ、日本で一番のもの、そこにしかないものを創り上げることが大切。
- ・宿泊はどうしても別府や湯布院。中津は滞在時間をいかに伸ばすかという視点で努力を始めている。
- ・条例制定時の一番の課題は地域内の経済循環。特に市民の方に地域内消費の大切さを認識してもらうことが重要。

【経営マネジメントについて】

- ・補助金申請に際しては、商工会議所のセミナーに参加し、初めて経営計画書をつくることになったが、あらためて自社の長所、短所について考え、長所を伸ばすにはどうしたらよいかという分析ができたことはよかった。
- ・中小企業こそ、科学的な経営が必要であり、そのためには経営理念、経営方針、経営計画を作成し、それを社員とともに見直しながらか進めていくことが重要。
- ・スポット型の支援から面的な伴走型支援への転換を積極的に進める必要性をあらためて感じた。税務、金融等の支援も行き着く先は全て小規模事業者の売上拡大、利益の確保という意識を、商工団体の経営指導員がもって取り組めば、全体の底上げにつながっていくのだろうと思う。
- ・金融行政の転換もあり、金融機関も企業の事業計画づくりに参画して行く方向。これからは財務だけでなく事業性を評価して融資を判断する事例が出てくると思う。

【新商品・サービス開発について】

- ・新商品開発には関心があり、商工会議所を介して、初めて県の産業科学技術センターを見学した。食品開発についてパッケージやコラボする会社など相談に乗ってくれるということなので、利用してみたいと考えている。

【人材不足について】

- ・人材不足が最大の課題。職人は高齢化。今後5年もしないうちに社員の半分以上が65歳を超える。このままでは技術継承が厳しいと考えている。
- ・人材不足に対し、地域別のアプローチは困難なので、業種別でのアプローチが必要である。

【施策情報の活用について】

- ・補助金などの施策情報については商工会議所報に載っているが、自分には関係ないだろうと思ってしまうので、こういうことに使えますよということを、もっと簡潔にわかりやすく伝えてもらえるとういと思う。
- ・県から情報が届いても自分たちがそれを役立てることができるのか、発想に結びつかない。県職員などとのコミュニケーションが必要なのだと思う。

【関係機関の連携】

- ・市の商工観光課、観光協会、商工会の違いがわかりにくく、どこに相談に行けばよいかわからない。
- ・祭りなどでは商工会青年部が頑張っているが、行政に積極性が感じられない。住民と役所に温度差を感じる。

【商工団体について】

- ・経営指導員に期待することは、計算力が高いとかということよりも、ネットワークよく企業を回ってくれること。
- ・経営指導員にも補助金申請を80件サポートする人もいれば1桁の人もいるなどばらつきがある。がんばりに応じて評価に差はつけていかねばならないし、地域に役立つ存在になれるよう、さらなるレベルアップが必要。
- ・祭りにも数百年続くもの、最近始めたものなど、季節毎に様々なものがあるが、どこまで商工会が絡んでいるのかわからない。